

きずな

2010年10月14日

NO 811

赤旗井原出張所

井原市井原町103 (TEL 62-6200)

井原市議会10月定例会で7日に日本共産党の森本ふみお議員が6項目質問しました。森本議員の質問と執行部の答弁の概要は次のとおりです。

森本ふみお議員の質問の概要

◆子どもの医療費無料制度を通院も早急に中学校卒業までに拡大することを決断していただきたい

市長は、先の市長選で「子どもの医療費の無料化を拡大します」と選挙公報で市民にお約束をし、ある地方紙、地方紙と言うのは中国新聞でしたが、8月31日付の候補者に聞くという記事で「子どもの医療費の全額無料化も、4年間のうちには中学卒業まで拡大したい」と答えておられます。

この報道は、市長がこう言われたので、こう報道されてると理解しています。

多くの市民は、通院も今すぐにでも中学卒業まで無料にしてほしい、と切望されています。

私は、これまで入院・通院とも中学校卒業まで無料にと提言してきました。

近隣市や町では医療費助成が急速に拡充が進んでおります。

いうまでもなく市長はご存知だろうと思いますが、お隣の高粱市では今月から高校卒業まで無料化を決めました。

中学校卒業まで入院・通院とも無料にしている市町村は、現在、県内市町村の7割弱になっています。

来年度当初から通院も中学校卒業まで無料にするよう決断してはどうですか。

◆地域の業者支援の観点から、住宅リフォーム補助制度の創設を考えていただきたい

住宅リフォームは、地域の業者を支援し、大きな経済波及効果があると全国的に注目されています。おとなり兵庫県の明石市では、総額1600万円の補助で1億3000万円のリフォームが行われ、これによって波及的に生まれる市内での効果額は、1億7500万円で約1.1倍の波及効果があったと計算されています。

住宅リフォームは、大工さん、左官さん、畳屋さん、内装や外装業者、電気屋さん、ガラス屋さんなど、地域を支えて頑張っておられる多くの業者や職人さんが関わる仕事です。これらの人々が潤えば地域の商店にも大きく波及します。是非住宅リフォームへの補助制度を創設してはどうですか。

◆太陽光発電装置設置に対する助成の更なる充実をして、市内に一気に普及させてはどうですか、

CO2削減と自然エネルギー利用の観点から、太陽光発電について、国、県ともに大変力を入れて推進しています。井原市でも四季が丘での新築住宅に

2面左上へつづく

左の質問に対する執行部答弁の概要

子どもの医療費の拡大については、子育て世代から強いご要望があることは充分承知している。

引き続き次代を担う子どもたちが、健やかに安心して子育てができる環境を作っていくため、優先して実施している。

無料制度を、通院も中学3年まで拡大することについては、来年度当初からというご提言でございます。

私（市長）としましては、来年度当初からという思いでございます。

しかし、あくまで医師会の協力なくしてはできない問題でありますので、議会が終了後、特に早い段階で医師会と協議の場を持ちたいと考えている。



私（市長）個人としても大変関心がある事例です。これまで井原市として経済波及効果は試算したことはありません。

他市での住宅リフォームの補助制度を実施している自治体は、22年3月末現在で、全国で154の自治体が何らかの形で補助している。

今後、市内における経済波及効果を試算し、本市の財政状況等を勘案しながら、今後の経済状況や、国・県の動向を踏まえて調査・研究をして行きたい。

国・県や他市の補助制度が、事前に予約が必要であったり、設定した件数に達した場合は、補助金が出ないなど、様々な制約がある中で、井原市においては、設置工事完了後、6ヶ月以内の補助金申請受付、申請されたすべての方に補助金を交付するなど、手続き的にも簡易なものにして、できるだけ多くの

2面右上へつづく

1面左下からつづく

対する補助に続いて、新たに市内全域で助成を行っています。

ただ、市として本腰を入れて太陽光発電装置を普及させるためには、四季が丘のように新築時のみ1kW10万円、上限50万円とまででなくても、市内全域に対する現在の助成を、更に充実させるべきだと考えますがどうですか。

◆井原・芳井・美星地区の方言を後世に伝えるため「方言辞典」の作成を考えてはどうですか

現在、この地方でも方言をだんだん使わなくなっています。だからこそ、井原・芳井・美星地区で、昔使っていた方言、現在も使っている方言にどんなものがあったのか、また、あるのかを後世に伝える必要性を痛感します。

一部の地区で方言をまとめて冊子にしておられるようですが、井原市としてかっちりとしたものを編集することが大変大事だと考えます。そこで、お年寄りに聞き取りをするなどのほか、様々な方法でこの地方の方言を掘り起こし、3地区の方言をまとめ（仮称）「井原地方の方言辞典」を作成してはどうですか。教育長のお考えをお尋ね致します。

◆地上デジタル放送に対応するための助成制度の創設を考えていただきたい。

2011年7月24日には、アナログ放送が終了し、地上デジタル（地デジ）放送に完全移行します。市内の方々のこれへの準備は整っているのでしょうか。普及率の全国平均は2010年3月時点で83.8%と言われています。井原市の普及率はどのくらいでしょうか。また、準備ができてない世帯の生活実態など、どういう状況の世帯なのかをお尋ねいたします。

ある自治体では、市民税非課税世帯で地デジ機器を買った人に助成しています。地デジ難民（テレビ難民）を出さないために、井原市でも助成制度の創設をしてはどうですか。

◆安全・安心を阻害する歩道の改修・整備を緊急に行うことを提言いたします。

市内の歩道で、一部が車道のほうに傾いていたり、高くなったり低くなったりと波打っているところが見受けられます。

車椅子の方とか足の不自由な方から、このような歩道は「安全に通行できず、大変危険だ」という声が寄せられています。

道路の構造上の問題もあり、すぐには改修できない箇所があるでしょう。しかし、そういう箇所が市内にどのくらいあるのか調査し、その結果に基づいて、安全・安心を阻害する歩道の改修・整備を最大限緊急に行うべきだと考えますがどうですか。調査の結果、市内にこういう危険な箇所が何件くらいあり、改修・整備しなければならぬ箇所がどのくらいありましたか。

1面右下からつづく

市民の皆様にご利用していただけるようにしております。

既に設置されている方との平等性を欠く事等から、現行の補助金1kW当たり3万円の補助で、上限4kW12万円を継続・維持することとしたい。

方言については、世代交代などで使われることが少なくなる、或いは、失われてしまうおそれもあります。したがって井原市内に伝わる方言を、伝承・保存していくことを前提として、どのような手法で取り組んでいくか、或いは、どのような形に仕上げていくのかなどを検討したい。

方言辞典をつくるためには、研究・研修をする委員会等を来年度の早い時期に設置し、年数がかかるとは思いますが、方針なり内容等について検討していくことが必要だろうと考えている。



井原市内での普及率や準備のできていない世帯がどんな状況の世帯なのかについても把握していない。

総務省で低所世帯への地デジチューナー等の支援などがあり、現在、市独自の助成制度は考えていないが、国・県の動向を注視しながら井原市としてもテレビ難民を作らない方策等も検討・検討していきたい。

井原放送に聞きましたところ、国からの要請を受け、アナログ放送終了後についても、引き続きアナログテレビで視聴できるように井原放送で準備しているとのこと。

これらの歩道を早期に改修・整備することは困難であると考えております。しかしながら歩道の起伏が大きい箇所については改善すべき点もあると考えています。

今後これらの箇所については、現地調査を行い、改善の可能性について検討していきたい。

現地調査をして結果、危険な箇所については可能な限り改修していきたい。

また、岡山県で管理している国道や県道の同様な箇所についても、現地調査を実施し、改善の可能性について検討していただくよう強く要望して行きたい。

この「きずな」は森本ふみお議員のブログ (<http://jcp-seibu.sakura.ne.jp/morimoto/>) でも見れます

生活に役立ち勇気と確信のわくしんぶん[赤旗]をお読みください(月額日刊紙2,900円日曜版800円)